

UNIDOで働くこととは

名前 西川泰藏

肩書 事務局次長

国連工業開発機関、UNIDOとは、途上国や新興国の持続的工業開発の支援を主たるミッションとする、国連の専門機関の一つです。具体的な活動は、（１）技術協力、

（２）国際標準などの規範策定や普及、（３）途上国経済開発に関する調査・研究や政策立案に対する支援、そして（４）途上国開発に係わる情報共有や政策課題の検討を目的とした「フォーラム」の開催の四つの柱から構成されています。これらの活動内容を政策課題の観点から見ると、持続的工業開発を通じた貧困の削減、そのための必要条件でもある中小企業やアグリビジネスの競争力の強化、途上国への技術移転・投資促進、環境・エネルギー問題への対応、グローバル市場への参入に不可欠な製品の品質確保や認証制度の確立、などの課題への対応が中心となります。

このため、UNIDOには、ウィーン本部の他、世界約50カ国にあるフィールド・オフィス、主に先進国からの技術移転を担当する約10カ国にある投資・技術移転促進事務所、ニューヨーク、ブラッセル及びジュネーブにあるリエゾンオフィスなどから構成されていて、工業技術、経済、法律、人事・財務など、さまざまな分野の専門家がホスト国、ドナー国、他の国連機関などと連携しつつ、世界で活動しています。

途上国や新興国の経済開発支援の分野で経験を有しておられる方々、そして、同分野、とりわけ持続的工業開発に不可欠な環境・エネルギー問題を専攻された若い方々に、UNIDOの活動に興味を持っていただければ幸いです。



- UNIDOで働く日本人

- インド地域事務所代表兼南アジア地域事務所長 藤野あゆみさん

現在、UNIDOのインド事務所代表及び南アジア地域事務所長として、南アジア7カ国(アフガニスタン、バングラデシュ、ブータン、モルジブ、ネパール、スリランカ)を担当しています。仕事の主な内容は、工業開発におけるエネルギーと環境そして貿易の分野での技術援助です。

特にインドでは製造業におけるエネルギー効率の向上や、クリーンテクノロジーの導入、PCBや製造過程で放出されたり産業廃棄物に含まれる化学物質(POPs)の処理等、工業分野の直面する問題に、じかに関わっています。インドのような中進国では、国連の役割や意義が取りざ

たされていますが、ある特定の専門的な分野では、まだまだUNIDOの持つグローバルな技術導入や知識の蓄積が強みを発揮します。膨大なインドの政府行政機構の中にあつて、各省庁間の調整を通し、政策レベルでのグリーン工業化の論議を立ち上げるのもそのひとつです。

ブータン、ネパール、バングラデシュ等のLDCでは、その工業製品が地域及び世界市場に参入する為に必要な国際取引における新しい基準や規制に関する情報交換や、新しい基準に従った商品を生産輸出する為の研修や訓練を行っています。また、国際レベルで競争するまでの工業ベース(特に食品加工、繊維業)を強化するための技術支援もしています。

インドを中心とした南南協力(South-South Cooperation)も大きな課題のひとつです。人とももの動きが激しいこの地域では、工業発展もCross-Boarderの視点なしには語れません。



- 戦略的研究・品質保証・広報局 開発政策・統計・研究部
工業研究調査官 原口信也さん

UNIDOでの研究調査業務は、主に途上国の持続可能な産業発展を支援するため、国々の政策立案の土台となるような研究をし、根拠に基づいた政策提言を行っています。大学での研究、教鞭の経験を経て、UNIDOで働いていますが、同じ研究職でも、UNIDOでの仕事は私にとってとても興味深いものです。



研究成果をただ出版するだけではなく、それがどういうふうに政策やUNIDOのプロジェクトに活かすことができるか、研究内容をUNIDOの開発政策担当グループや技術協力グループと積極的に議論を重ね具体的な行動指針を抽出していきます。また、国の政策担当者や他の国際機関と研究成果について討議する機会も多く、そういう中で常に途上国の産業発展の課題について直接情報を得、新たな研究へと繋げていきます。このような国連ならではの研究業務は、変化に富、知識を実際に応用し発展途上国のために活かす機会に恵まれています。

UNIDOで働くために

- 応募の実例
- プログラム開発・技術協力局環境管理部
工業開発官 飯野福哉さん

環境管理部はグリーンインダストリー（Green Industry）を横断テーマとして、クリーナープロダクション（Cleaner Production）、水資源管理、そして残留有機汚染化学物質管理という3課で構成されています。部全体としては、水銀も含めた関連条約のプロジェクト企画・申請・運営、関連テーマの国際会議開催やネットワークの立ち上げなどを主な仕事としています。私の所属するストックホルム条約課は、ダイオキシン、PCB、電子廃棄物に含まれるある種の臭素系難燃剤やフッ素系界面活性剤を規制物質とするストックホルム条約を担当しています。

具体的には、公共の環境基金としては最大であり、国連気候変動枠組条約への資金提供もしている、地球環境ファシリティ(Global Environmental Facility)に、各国の政府担当者と協力してプロジェクトの申請を行い、その実施をしています。

同僚の多くは博士号やMBAを持ち、数年の職務経験の後、採用されています。私は、アメリカ環境保護庁や（独）産業技術総合研究所などで研究職に従事した後、東京にある国連大学を経てUNIDOに入りました。国連大学にてプロジェクト管理を担当したことが、UNIDOの公募で採用される際に役立ちました。途上国における環境問題の改善に直接関われるやりがいと責任のある仕事です。皆さんの応募をお待ちします。

